

議題

- ・第5次ちば中小企業元気戦略(案)に関する意見募集について
 - ・第5次ちば中小企業元気戦略の原案について
- ※一括して審議

《元気戦略において講ずべき施策について》

【1 成長の後押し】

- ・ベンチャー企業がIT分野で大きく成功する一方で、既存企業にとっては、日本経済が縮小する中で首都圏大都市部のマーケットに集中し、千葉県で言えば南部や北東部などの地域への投資が減少する。そういう中で生き残るには、DX化が重要。
- ・今後10年に向けてDX投資が必要だが、非常に莫大な金額を要するのが課題。SNSの発信やDXに挑戦しているが、非常にコストがかかると実感している。DX化の推進にあたってサポートや減税があるとよい。
- ・各種補助金・助成金については、都道府県によって補助金の有無や有利不利が異なるので、他県に負けない制度づくりをしてほしい。
- ・ロボット事業を行っているが、ロボット関係では海外メーカーが日本の市場を狙って進出する一方で、日本企業も海外市場をターゲットにしている。日本市場が縮小する中で、そのような交差的状況を活かして中小企業が国内で利益を出していくことも重要。
- ・展示会への出展は販路開拓や企業間連携に効果的であるが、中小企業にとって出展費用が重い負担となる。無料・安価に出展できるよう支援があるとよい。また「ちばのキラリ」といった認定取得者が、認定を受けるメリットとして展示会等で露出できる機会が増えるとよい。
- ・これまでは、このような計画の中にここまでデジタル化が取り上げられることがなかったので、第5次戦略で大きく取り上げられて大変良かったと思う。デジタル技術の進歩は非常に速いので、今後も元気戦略を時代に合わせて更新していくことが必要。
- ・創業支援の項目に異論はないが、ベンチャー企業育成に偏っているように見える。従来からの一般的な起業、地域に密着したような起業も、雇用等の観点では重要。
- ・中小企業診断士協会には「創業支援研究会」があり、千葉県を創業ナンバーワンにすることをミッションとしている。創業支援に関しては、もっと診断士協会と連携してできるような取組を検討していただけたらと思う。
- ・「若い世代に起業・創業を身近に感じてもらう取組」について、小中学校や高校に向けて情報発信していくことが必要だが、方法として、県内で色々な認定マークをもらっている優秀な企業は沢山あるので、そのような企業を学校に案内して、話をしてもらう機会を提案していくとよい。学校としても講師を選ぶ不安感がなくなる。
- ・起業・創業支援では、私自身が千葉県で起業した一人として、相談窓口の一覧ページが非常に分かりやすい。創業時は誰にどうやって相談したらよいか分からない中で、よろず支援拠点や商工会を案内してもらい、役立った。若い人や起業したい人が、どこに相談したらよいかということが明記されていることが重要。

【2 経営基盤の強化】

- ・伴走支援について、専門家として事業承継を支援しているが、派遣期間中に経営課題の見える化をするものの、派遣終了後の課題解決の取組まで継続的に支援できないことが課題。一部の余裕

のある企業はそのまま顧問契約として継続できるが、それ以外の企業は難しいので、継続的な伴走支援の制度があったらよい。

- ・支援策の周知方法について、これに登録すればこのようなメリットがあるというような優遇策について、県庁内の部局が連携しながら、工夫して情報発信して欲しい。

【3 人材の確保・育成・定着】

- ・多様な人材の確保という点については、当社だけでは採用がうまくいかなかった一方で、他業種の企業と連携して、工場の一角を借りて人材のチームを作った。自社の社員だけではない、他社の人材とも連携して実践するというよい流れができた。

【4 地域活性化】

- ・県の施策・市町村の課題を地域の小規模事業者と共有しながら、そこに取り組む企業はこういう補助が使えますよというような情報と補助の一体的な発信ができればよい。

《今後の元気戦略の運用について》

- ・元気戦略の広報をしっかりと、いかに関係者に浸透させるかが重要。たとえば、各種の関係団体に対して直接説明を行うことで、関係者の理解が深まり、波及効果としてネットワークができたり、問合せを通して情報が入ったりする。
- ・策定して実際に政策展開していくと、色々な意見が出ると思うので、随時共有してもらい、そのような意見の反映をどうするか考えていきたい。戦略は決めることが目的ではなく、効果を出していくことが目的であることを意識して欲しい。
- ・県内産業の発展により、県の税収が増えるような大きな仕組みを考えてもらえるとよい。千葉県の産業をもっと育てる、ということこれから一緒に考えていきたい。
- ・戦略案の中で、各施策の冒頭の「現状と課題」は、どのような現状認識で、どのような課題を解決するための施策かが書かれており、非常に重要。具体的な施策に落とし込む際や評価する際に、施策が現状と課題に沿っているか、その都度立ち返ることになる。
- ・現状と課題として掲載されているグラフについて、関東近県と比べて千葉県がどのような特徴があるか気になった。また、各施策はどれも非常に重要だが、どうしても横並びに見えてしまうので、メリハリがあってもよい。例えば、他県と比べて千葉県はここが弱いとか遅れているという点があれば、そこを重点的に対策する、ということがあってもよい。
- ・定期的に関係団体と懇談会等を開催し、会員企業に情報が届くように発信して欲しい。
- ・分かりやすい発信をして欲しい。他県の戦略、例えば、兵庫県ではサブタイトルがあり、内容に入りやすい。項目名もいくつか狙いを定めたプロジェクトに絞られており、キャッチーな言葉が使われている。
- ・国でも「2030年」を目指したビジョンを掲げることが多いが、千葉県ももっと先の方向性を見据えて示せたらよいと思う。
- ・いかに県民に分かりやすく簡単に知ってもらえるかが大事。県民だよりのほか、より身近ではラジオ、千葉日報、千葉テレビなどを活用し、まずは知ってもらえるような情報発信をして欲しい。
- ・国の白書等でも概要版が作られているが、最初の入り口として概要版は重要な点。概要版を見て、より詳しい内容は本文を見ていただくという形で伝えることが大事。

- ・各委員が意見されたように、策定後、どう発信して、県民や事業者に伝えていくか、そのプロモーションをしっかりとって隅々に伝わるような手段を考えていただきたい。

【委員】

1	中山 健	共立女子大学	学識経験者
2	小谷 健一郎	千葉商科大学	学識経験者
3	浅野 美希	食育ネット株式会社	中小企業者
4	小倉 秀一	株式会社いまでや	中小企業者
5	熊谷 正喜 (欠席)	ハイテック精工株式会社	中小企業者
6	菰岡 翼	有限会社松山商事	中小企業者
7	董 麗萍	株式会社ロボット応用ジャパン	中小企業者
8	能登 昭博	合同会社NIS	中小企業者
9	三浦 慎 (欠席)	株式会社三英	中小企業者
10	浅井 鉄夫	特定非営利活動法人ITCちば経営応援隊	支援機関
11	近藤 利砂	千葉県中小企業診断士協会	支援機関
12	菅野 宗孝	千葉県信用保証協会	支援機関